

魚沼せき農場 関 隆 (新潟県魚沼市)

～ 農福連携で生産性向上 ～



魚沼 せき農場



寒さが厳しいほど甘みが増す八色菜



栽培管理されたふきのとう



自然食ブームで人気があるウルイ

経 緯

- 平成26年に従来の稲作単一経営から園芸作物を導入。
- 現在は、稲作60ha（平成26年と比べ2倍に増加）、園芸作物130a、山菜作物70a。
- 園芸作物は、夏期は加工用トマト、ミニトマト（アンジェレ）、薬用シャクヤク等を栽培。冬期は育苗用ハウスで八色菜のほか、山菜作物のふきのとう、ウルイを栽培。
- 複合経営により年間を通した雇用の実現と安定した収入が確保できたが、労働力の確保が大きな課題となっていたところ、新潟県魚沼地域振興局の勧めで平成26年から福祉事業所と農福連携の取組を開始。

取 組

- 園芸・山菜作物の定植や除草、収穫、選別、袋詰め作業、水稲の籾殻の袋詰め作業を委託。
- ふきのとうの栽培は福祉事業所に全面作業を委託し、ウルイの栽培は自ら行う。栽培時期が重なる作物であったが、作業分担することで2つの作物を同時に栽培することが可能となった。
- 障がい者の特性に見合った作業を委託することで生産性の向上につながった。

今後の展望と課題

- 園芸作物は手作業が多く丁寧な仕事が必要であり、農福連携の取組を通じ、品質の良い作物を提供していきたい。
- 福祉事業所とは信頼関係も構築され、大切なビジネスパートナーとなった。これからも農作物の生産と一緒に携わってもらい農福連携の取組を継続したい。